

修士論文（要旨）

2009年1月

接触場面における意味交渉の実際  
—中国人留学生にみる「聞き返し」のストラテジー—

指導 宮副ウォン裕子 教授

国際学研究科

言語教育専攻

207J4014

平岡由紀子

## 目次

<b>第1章</b>	<b>研究の背景・先行研究・目的</b>	1
1.1	研究の背景	1
1.2	先行研究概観	1
1.3	研究の目的	8
<b>第2章</b>	<b>調査方法概要と定義</b>	10
2.1	調査対象者	10
2.2	調査方法	10
2.3	「聞き返し」の定義	12
2.4	「聞き返し」の認定基準	13
<b>第3章</b>	<b>分類と調査結果</b>	15
3.1	学習者別「聞き返し」の実施状況	15
3.2	言語形式面からの分類	16
3.3	機能面からの分類	20
<b>第4章</b>	<b>「聞き返しの談話」記述分析</b>	23
4.1	表現形式「エコー型」に関する分類	23
4.2	機能「確認要求」に関する分析	30
4.3	「聞き返し回避」に関する分析	37
4.4	母語話者協力者の実施した「聞き返し」に関する分析	44
<b>第5章</b>	<b>調査結果の考察</b>	50
5.1	日本語母語話者からの評定	50
5.2	ポライトネス理論で捉える「聞き返し」と「聞き返し回避」	57
5.3	「聞き返し」の効果、非効果に関する総合的考察	60
<b>第6章</b>	<b>会話教材における「聞き返し」および授業の提案</b>	62
6.1	教材での「聞き返し」の扱い	62
6.2	「聞き返し」指導の授業提案	65
<b>第7章</b>	<b>まとめと今後の課題</b>	73
7.1	観察結果とその分類	73
7.2	心理的側面からの評定	74
7.3	教材分析と授業提案	75
7.4	今後の課題	74

## 要旨

接触場面では言語面、文化面、心理面などに起因する様々な問題が発生し、コミュニケーションを阻害する。本稿は、接触場面での聴解問題を解決する戦略である「聞き返し」に着目し、計画的な指導により、「聞き返し」戦略の習得を促進させられるのではないかとこの観点から、対面会話における「聞き返し」行動を研究対象とした。

調査協力を依頼したのは、初級後半レベルの中国人留学生7名で、その「聞き返し」行動を日本語母語話者とのインタビュー形式による対面会話で調査し、学習者全般と学習者個人の両面の視点から分析・考察を行った。調査は2回実施し、1回目は稿者、2回目は留学生とは初対面の大学生が対話相手となった。

対話データから抽出した言語、非言語行動による「聞き返し」を、作用の強弱の視点から「強い聞き返し」と「弱い聞き返し」に分類した。「強い聞き返し」としては、丁寧体文末、上昇イントネーション、疑問詞の使用、間投詞の使用、言い換え、さらに、表情やジェスチャーなどの多様な形態が観察された。一方の「弱い聞き返し」は、普通体文末と単語の繰り返し（エコー型）にその特徴があり、それに小さい声による発話と非上昇イントネーションが付随した。初対面の大学生に対しては「強い聞き返し」のみが使用され、聴解問題が起こっていることを明示的に伝達することで積極的な支援要求が行われた。また、「聞き返し」の文体に関しては、そのほとんどが普通体で行われ、文体選択が親疎関係に因らないという結果が得られた。

「聞き返し」と「聞き返し回避」の使用頻度は個別差が顕著であり、「聞き返し」多用タイプの学習者と「聞き返し回避」多用タイプの学習者がいた。「聞き返し」を多用する学習者においては問題解決だけでなく、「聞き返し」による会話への積極参加や相手との連帯感が示され、「聞き返し」が聴解問題解決の戦略のみでなく、コミュニケーションを円滑化する戦略として機能することが明らかになった。

回避については、その意図を7つに分類したが、それについても各意図の使用頻度に学習者個別の差異がみられた。特殊な事例として、会話中に相手の使用した言葉の意味を辞書で調べる例、「聞き返し」を行わず、相手の質問に質問で応じる逆質問の例が観察された。

また、学習者の「聞き返し」行動に母語話者がどのような評定を行うかを調査した。その結果、「聞き返し」を積極的に行う学習者にはプラスの評定がなされた。これは、「聞き返し」がコミュニケーションを活性化させると捉えていることがその主な要因であった。したがって、聴解問題が発生した場合は曖昧な姿勢・態度をとるのではなく、早い段階でそのシグナルを明瞭に発することが期待された。これに反して、回避を多用する学習者にはマイナスの評定がなされた。また、相手の発話が理解できていないことを表面化することを避け、「聞き返し回避」を繰り返す姿勢に対しては、談話全体が“負”と見なされるという厳しい意見が示された。

以上の考察を踏まえ、本稿では「聞き返し」の授業提案を行った。授業は、将来の自律学習を前提に、不足していると思われる「聞き返し」戦略の“意識化”に主眼を置き、「聞き返し」が自信を持って実施できるよう、形式、タイミングの習得を目指しデザインした。本授業案は学習者の「聞き返し」戦略の習得促進に資することができると期待する。

<参考文献>

- 猪狩美保(1999)「初級日本語学習者の「聞き返し」のストラテジーー初級日本語教科書との関連からー」『横浜国立大学留学生センター紀要』6
- 池田伸子(2003)「ビジネス会話における「聞き返し」ストラテジーの使用傾向ービジネス日本語教育用教材開発の基礎としてー」『広島大学留学生センター紀要』13
- 石田(猪狩)美保(2002)「韓国語を母語とする日本語学習者による『聞き返し』の使用」『横浜国立大学留学生センター紀要』9
- 宇佐美まゆみ(2002)連載「ポライトネス理論の展開」月刊『言語』31巻1~12
- 大野陽子(2000)「日本語学習者が使用する「聞き返し」のコミュニケーション・ストラテジーー初級後半から中級後半までのインタビューを基にー」『南山日本語教育』7
- 尾崎明人(1992)「「聞き返し」のストラテジーと日本語教育」『日本語研究と日本語教育』(カッケンブッシュ寛子他編)名古屋大学出版会
- 尾崎明人(1993)「接触場面の訂正ストラテジーー「聞き返し」の発話交換をめぐって(中間言語研究<特集>)」『日本語教育』81
- 尾崎明人(2001)「接触場面における在日ブラジル人の「聞き返し」とその回避方略」『社会言語科学』4(1)
- 西條美紀(1998)「接触場面におけるメタ言語的方略の有用性ー発話理解の問題を解決する学習者方略についての実証的研究ー」『世界の日本語教育』8
- トムソン木下千尋(1994)「初級日本語教科書と「聞き返し」のストラテジー」『日本語教育論集 世界の日本語教育』4
- ネウストプニー・J.V. (1995)「日本語教育と言語管理」『阪大日本語研究』7
- ネウストプニー・J.V. (1997)「プロセスとしての習得研究」『阪大日本語研究』9
- 福間康子(1994)「口答試験にみるコミュニケーション・ストラテジー：聞き返しの表現形式とその応答について」『九州大学留学生センター紀要』6
- 堀口純子(1997)『日本語教育と会話分析』くろしお出版
- 宮崎里司(2002)「第二言語習得研究における意味交渉の課題」『早稲田大学日本語教育センター』創刊号
- 宮副ウォン裕子(2003)「多言語職場の同僚たちは何を伝えあったかー仕事関連外話題における会話上の交渉ー」『接触場面と日本語教育ーネウストプニーのインパクト』宮崎里司/ヘレン・マリオット(編)明治書院
- 横須賀柳子(2001)「情報取りにおける聞き手のストラテジー」『ICU日本語教育研究センター紀要』10
- Brown,P. and Levinson,S.(1987) *Politeness : Some universals in language usage. Second edition.* Cambridge University Press.
- Long,M.(1983) “Native speaker/non-native speaker conversation and the negotiation of comprehensible input” *Applied linguistics*. Vol.4(2)